



# バレエ教室を開業し39年 教室運営、現役活動、 舞台制作も続けて なでしこカ

Power of Nadeshiko

昭和の時代にバレエ教室を始めた後藤千花さん。創設当時は女子羨望的だったバレエ教室は、徐々におけいこごとの一つとして一般化。少子化の今でさえ教室が乱立しバレエ教室の環境が激変する中、代表として、現役バレリーナとして、舞台製作者として走り続けてきた。

## 高い指導力と恵まれた稽古場に生徒が集まり

1987年、後藤さんが代表をつとめるバレエ教室「ステップワークスバレエ」は名東区に創立。稽古場は名門の舞台と同じ10m×18m(180㎡)、天井は、リフトで持ち上げられたダンサーが手を伸ばしても着かない高さだ。当時一般的だった稽古場の木の床は、よりバレエの練習に合うように設計されている。

恵まれた稽古場と後藤さんの指導力にひかれ、開業時に数人だった生徒は、一時200人を超えた。これまで教えた生徒は数千人。中には、世界的バレエコンクールで認められ海外で活躍した生徒、宝塚に入団した生徒、劇団四季の俳優になった生徒もいる。

## 華やかな受賞歴に甘んじず

後藤さんはバレエ教室創設後も、数年前まで現役バレエダンサーを続けて2001年にはバレリーナとして「名古屋市芸術奨励賞」を受賞、手掛けたバレエ舞台のオリジナル作品で「名古屋市民芸術祭賞」を3度受賞した。受賞した3作は、すべて日本を題材にしたもので高い評価を受けた。舞台制作は現在も精力的に行っている。



これ以外にも多くの受賞歴が

後藤さんは、創作したバレエの舞台に、子どもも含む生徒らにも出演機会を作ってきた。「生徒は舞台マナーだけでなく、“皆で舞台を作り上げる楽しさ”も学べるのです」と語った。

## バレエを学び舞台を踏むことで生徒が成長

「今、注目度の高いスポーツ（フィギュアスケート、シンクロナイズドスイミング、体操など）の基礎にはすべてバレエの動きがあります（一流選手は競技練習と合わせてバレエを学んでいる）。優雅で美しく見えるバレエですが、練習では厳しい部分も多いため、集中力や我慢強さも養われ、子供の成長にととても良いと思っています」と後藤さん。

「教室の発表会は、相当な時間や労力がかかり毎年開催は難しい」と言われる中、後藤さんは生徒のために毎年大きな舞台で発表会を行うほか、個々の技術を披露する発表会も行ってきた。「子どもたちが発表会を機に成長しますから」という後藤さんの考えで、生徒は多くの舞台を踏むことができる。このほか1990年からは、外国人講師を招致し「アメリカのバレエを学ぶワークショップ」も複数回開催、新しい経験と学びの機会も作ってきた。



後藤千花公演「椿姫」



後藤千花公演「美女ヶ原」